

日頃から災害に備えましょう

①9～次の有珠山噴火にどう対応するか その2～

NPO 法人環境防災総合政策研究機構
理事 宇井 忠英

〒 自治防災課自治防災係 (市役所 2 階 ☎23-3331 内線464・465)

6月号の記事では事前に噴火が判
るのか、どこで噴火するのか、何が
起こるのか、避難が必要な範囲、そ
して噴火はいつまで続くのかを解説
しました。2000年の噴火では直
前の予知が成功し、人的被害は出ま
せんでしたが多大な物的損害があり
ました。次の噴火ではどうなるで
しょうか？

噴火警戒レベルと火山情報






気象庁は海外の先進事例を見習っ
て、火山の活動状況をレベルで表
示する仕組みを2007年に作りま
した。

活火山に取り付けたさまざまな観
測計器から得られるデータを常に監
視していて、レベルを引き上げたり
引き下げたりするときに予報・警報
を発表するという仕組みです。

レベル1で噴火予報、レベル2と
3で火口周辺警報、レベル4と5で
噴火警報が発表されることになっ
て、有珠山は現在レベル1です。
この5段階の火山情報は、火山の
活動状況と避難行動にリンクしてい
ます。判りやすいと感じられるかも
知れませんが、レベルの変更、特に
多くの市民の避難行動に関わるレベ
ルの格上げは容易なことではないの
です。

天気予報や緊急地震速報と違い、
噴火は稀で毎回違ったことが起こる

噴火警戒レベルとキーワード

警報・予報	対象範囲	レベルとキーワード	
噴火警報 (住居地域) <small>略称 噴火警報</small>	居住地域 及び それより 火口側	レベル5 避難	
		レベル4 避難準備	
噴火警報 (火口周辺) <small>略称 火口周辺警報</small>	火口から 居住地域 近くまで	レベル3 入山規制	
	火口周辺	レベル2 火口周辺 規制	
噴火予報	火口内等	レベル1 平常	

のでレベル変更の判断材料が明確で
はありません。

レベルの格上げがリスクの軽減に
つながるかどうかは、気象台の担当
者の判断と噴火予知連の専門家の適
切なアドバイスにかかっています。
有珠山は噴火する場所が山頂だけ
ではなく、洞爺湖温泉街など山麓の
一部でも噴火する可能性がある厄介
な火山です。

過去の実績では前兆の地震が頻発
し始めると必ず避難が必要な規模の
噴火に至ることが判っていますが、

事前に噴火地点や噴火開始の時間、
何が起こるかを絞り込むのは難しい
のです。

また、2000年噴火のように避
難を促す情報が出てから噴火開始ま
で2日の余裕があるとは限りません。
レベル5避難という情報が出るま
で待っていては避難行動が間に合わ
ない可能性があります。被災して負
傷したり命をおとってしまうという
事態を避けるには、早めの避難行動
が望まれます。

避難勧告と避難指示

有珠山で火口周辺警報や噴火警報が発表されると、市は避難勧告や避難指示を発令し避難所を開設します。

避難などの情報伝達を防災無線や広報車に頼っていた2000年噴火のときは違い、現在では携帯電話で確実に個人に情報が伝わる仕組みとして、「防災情報配信サービス」があります。この登録方法は市役所のホームページに掲載されています。避難勧告は避難しましょうと勧めるだけで強制力はありませんが、避難指示は本人の意思に関わらず、警察官が強制的に避難区域の外に連れ出すことが認められています。

避難指示の対象区域

気象庁は有珠山噴火のときの避難対象区域を地図に示して発表しています。下の図の太線に囲まれた範囲です。

この区域は有珠山防災マップに示されている山頂噴火と山麓噴火それぞれで、火砕流や火砕サージが到達する可能性のある範囲を重ね合わせたもので、過去の噴火で発生した火砕流などの噴出物の分布状況を火山の専門研究者が現地調査をして判断したものです。

伊達市が避難対象区域を決めるときは、万一を考えてこの太線よりは広めの道路や河川、行政区画など誰にでも判りやすいところを境界にします。

避難を始めるときにはいつになったら帰れるか予測不能です。あとで後悔しないためには、ふだんから避難勧告が出たらどう行動するか、持ち物やペット対策なども含めて家族で話し合い、避難行動を試してみるところでしょう。避難して身の安全は保てても職場の閉鎖や農場や漁場の世話ができなくなるなどの経済的な損失を生じてしまいます。そうした事態に至った時どうするかも考えておくべきことなのです。

正常化の偏見

噴火に限らず他の自然災害が発生した時でも避難勧告や避難指示に応じようとする人ができます。

身の周りの限られた体験や知識を根拠にして「自分のところは大丈夫だ」と思い込むのです。こういう思い込みを社会心理学者は「正常化の偏見」とよんでいます。

火山噴火は稀にしか発生しないので、限られた自分の経験や先祖からの言い伝えは適切な判断材料にはなりません。

有珠山の噴火警戒レベルと必要な防災対応



この図は、国土地理院発行20万分の1地勢図「室蘭」を使用して作成しています。

■噴火地点が特定されない段階

- レベル5：太線内からの避難
- レベル4：太線内で避難準備
- レベル3：入山規制や山麓での営林作業の中止等
- レベル2：火口周辺への立入規制

■噴火地点が特定された段階

噴火地点や噴火様式が特定された段階で、その影響の及ぶ可能性がある範囲に対してレベル5（避難）やレベル4（避難準備）等を適用します。

このレベルは地元市町等と調整して作成したものです。

図の凡例

- 噴火により火砕流・火砕サージや大きな噴石の影響を受ける可能性がある区域
- 噴火の起こる可能性のある区域

(有珠山火山防災マップ(平成14年2月)の山頂噴火及び山麓噴火の危険区域予測図に基づき設定した)

※太線内が噴火警戒レベル5での避難対象区域(気象庁リーフレットより)